
新型コロナウイルス感染症にかかる 県内の感染動向等について

対象期間 2月28日～3月6日

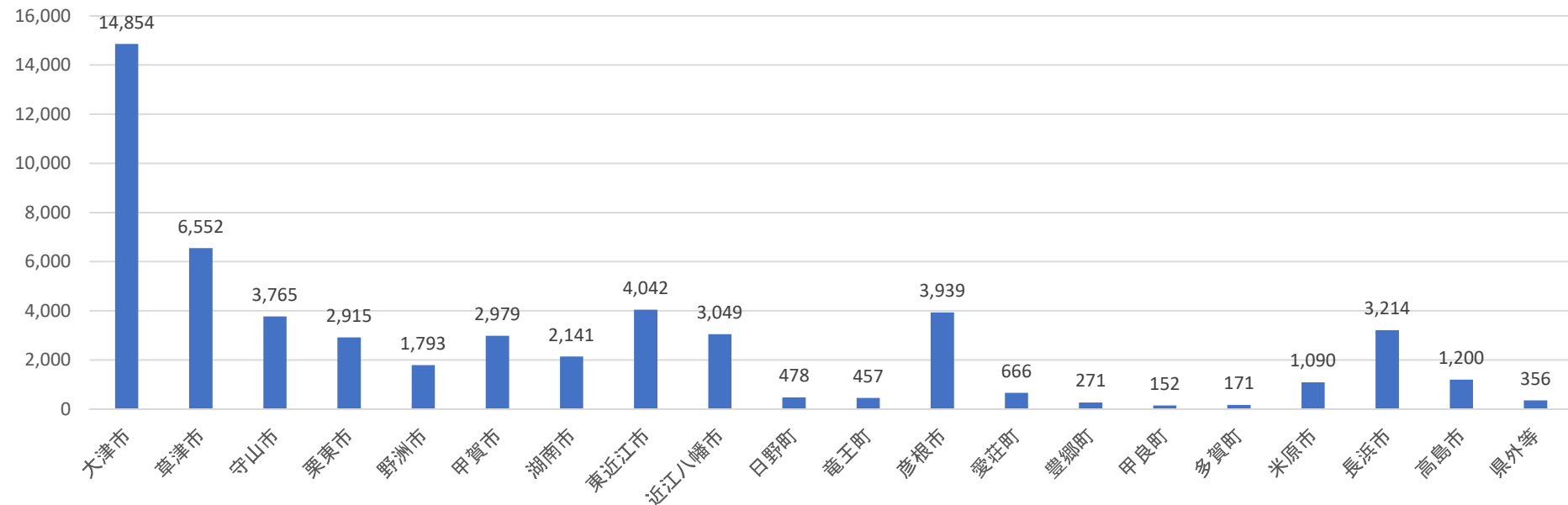
3月8日 健康医療福祉部感染症対策課

1、県内の感染状況について

1) 県内の陽性者発生状況

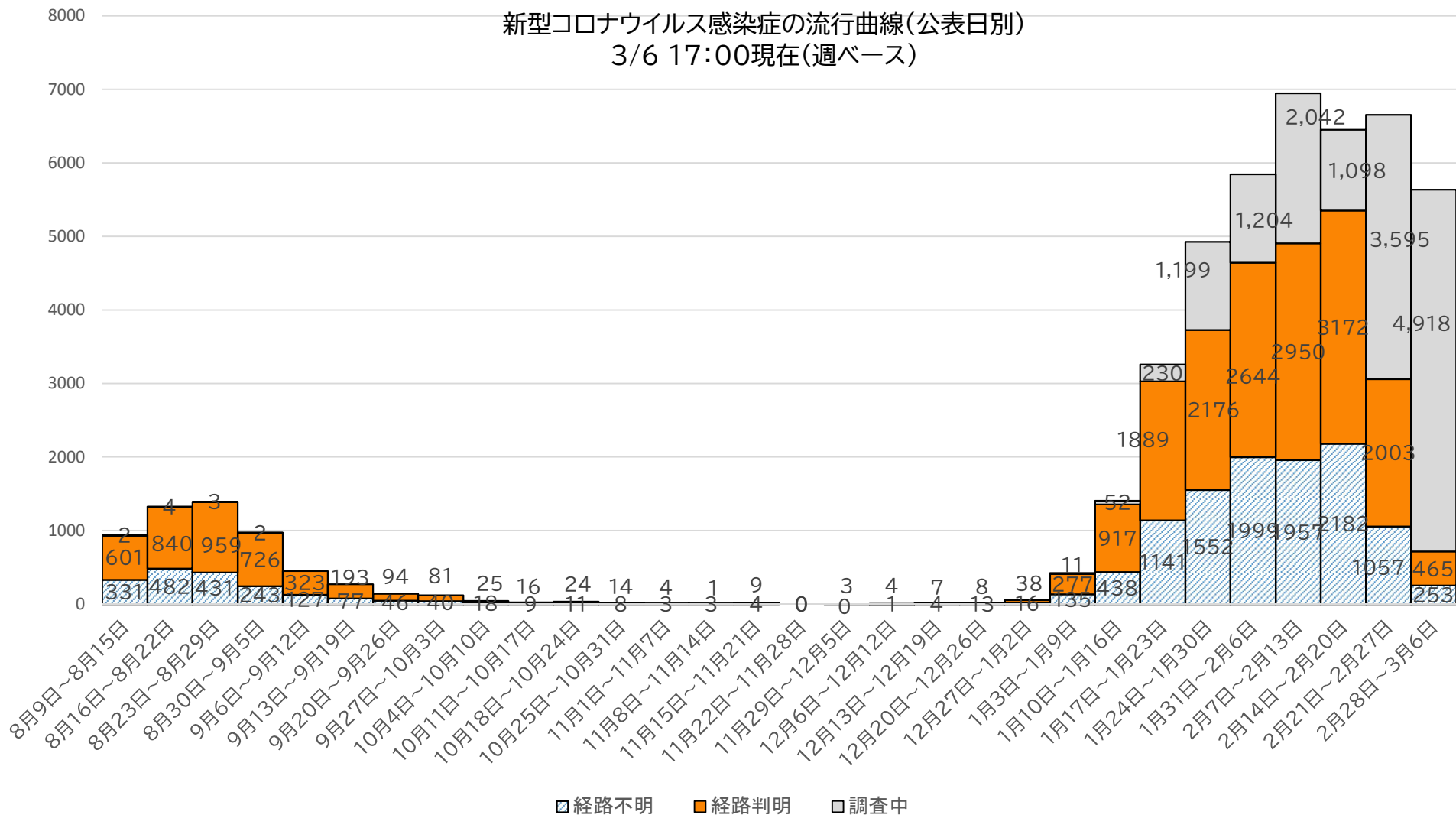
	新規感染者数
今週の報告数(2/28~3/6)	5,636人
累計(3/6時点)	54,084人

2) 市町別の累計陽性者発生状況



3) 県内の感染動向

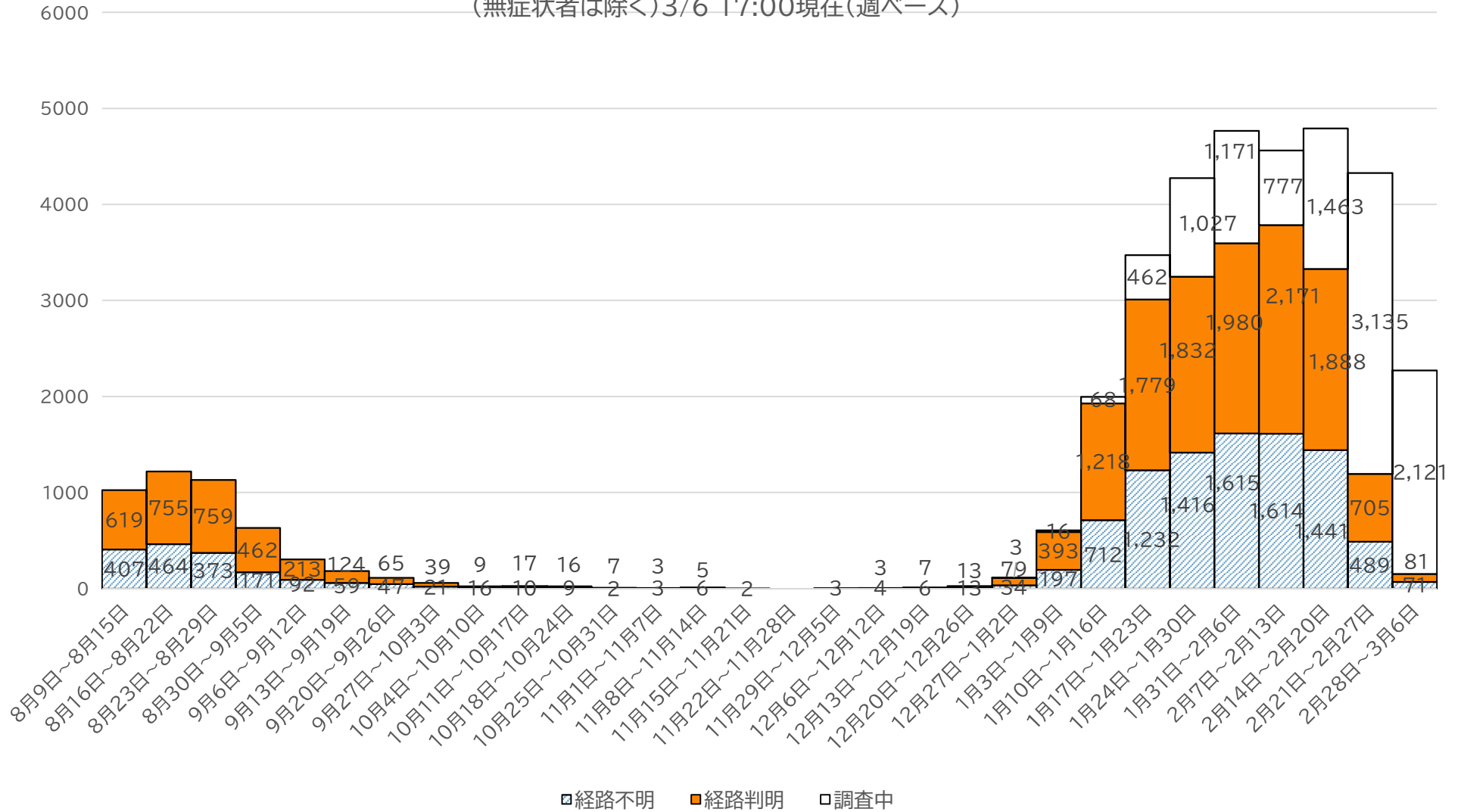
① 流行曲線(公表日別)(3月6日現在)



流行曲線：感染症の流行を経時的に観察し、流行の特徴を把握することができます。

②流行曲線(発症日別)(3月6日現在)

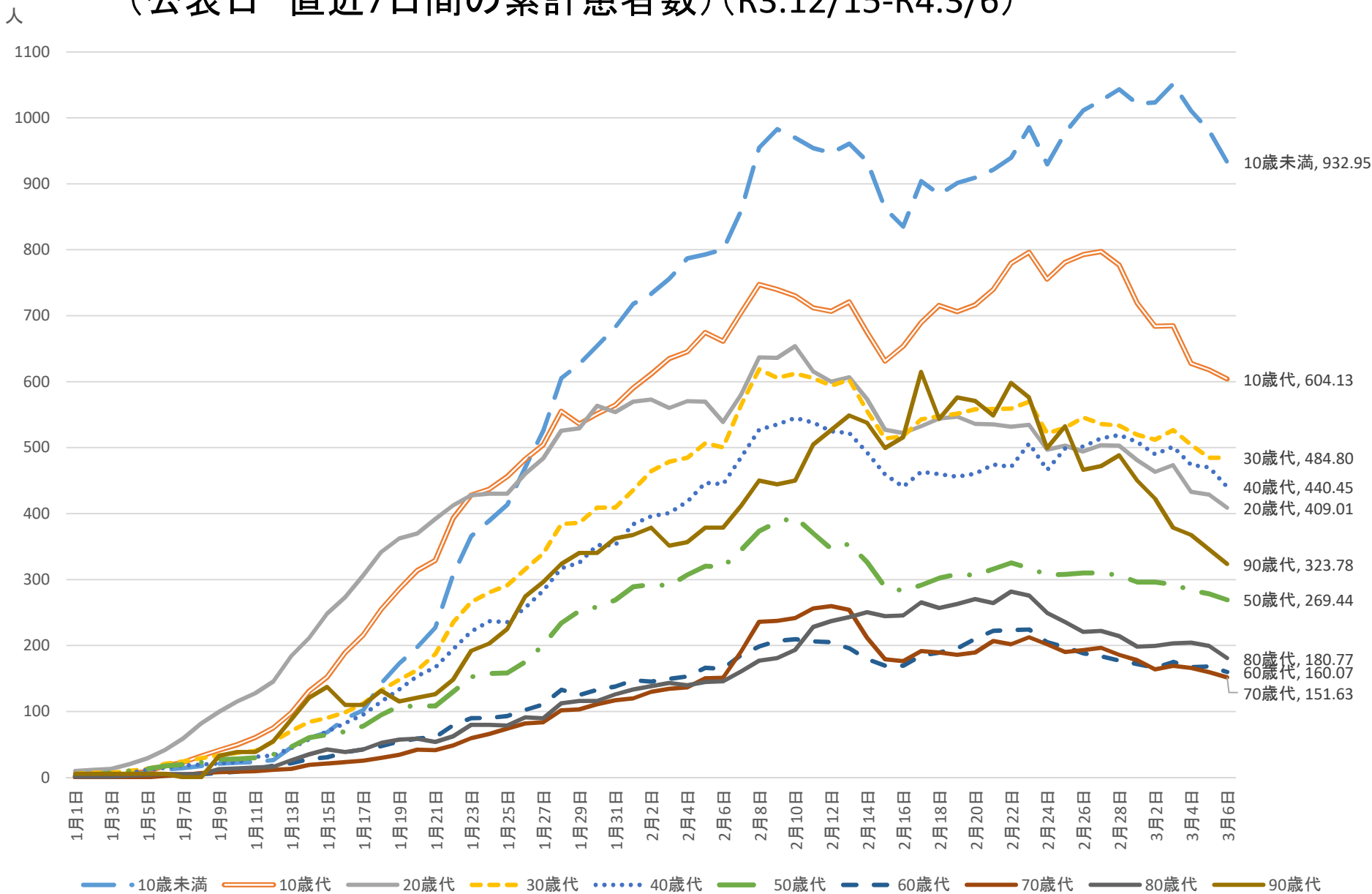
新型コロナウイルス感染症の流行曲線(発症日別)
(無症状者は除く)3/6 17:00現在(週ベース)



注)無症状者を計上していません。今後3/6以前に発症した患者が届出されることがあります。

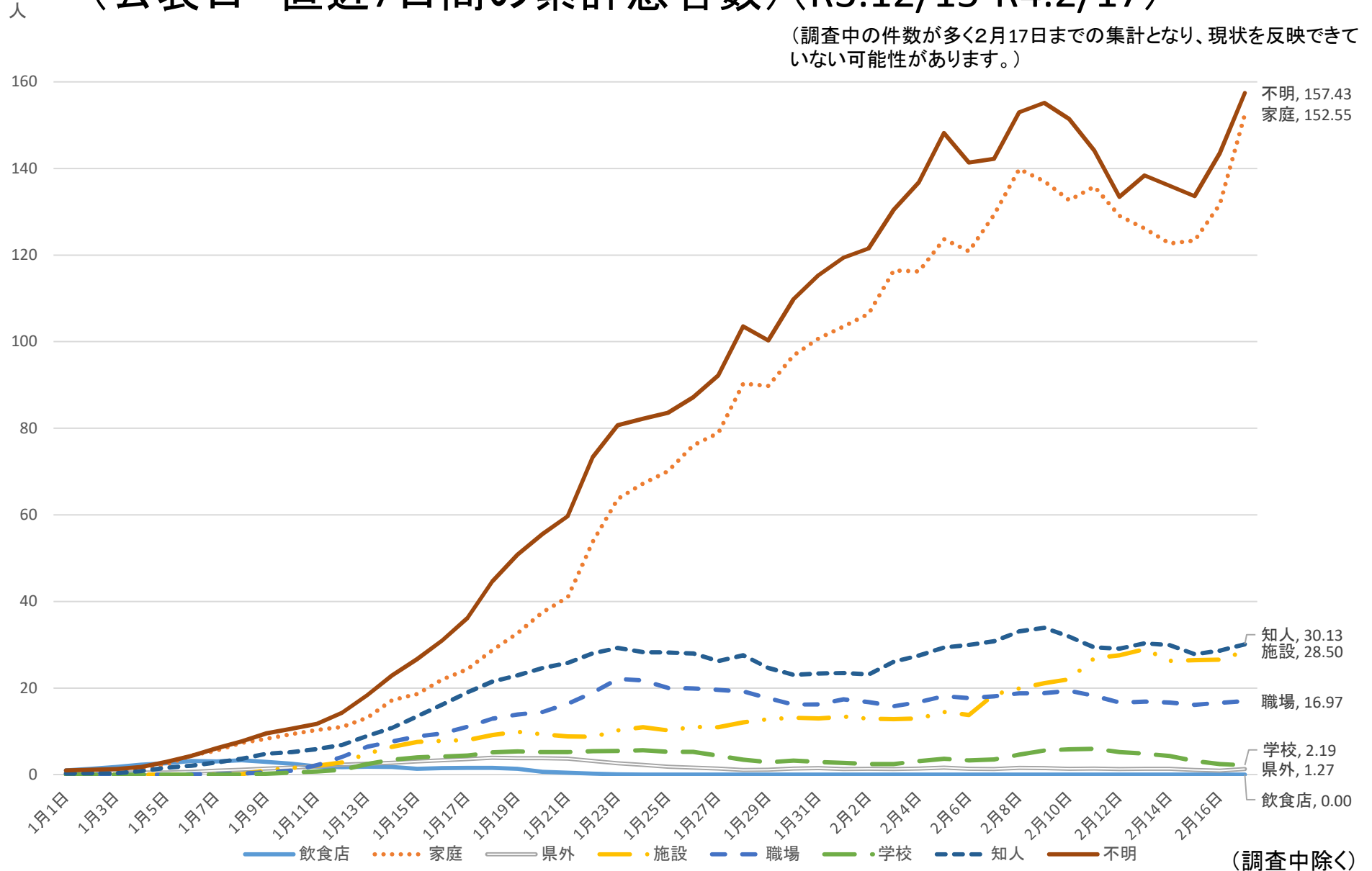
4)年代別 10万人あたりの新規感染者数推移

(公表日 直近7日間の累計患者数)(R3.12/15-R4.3/6)



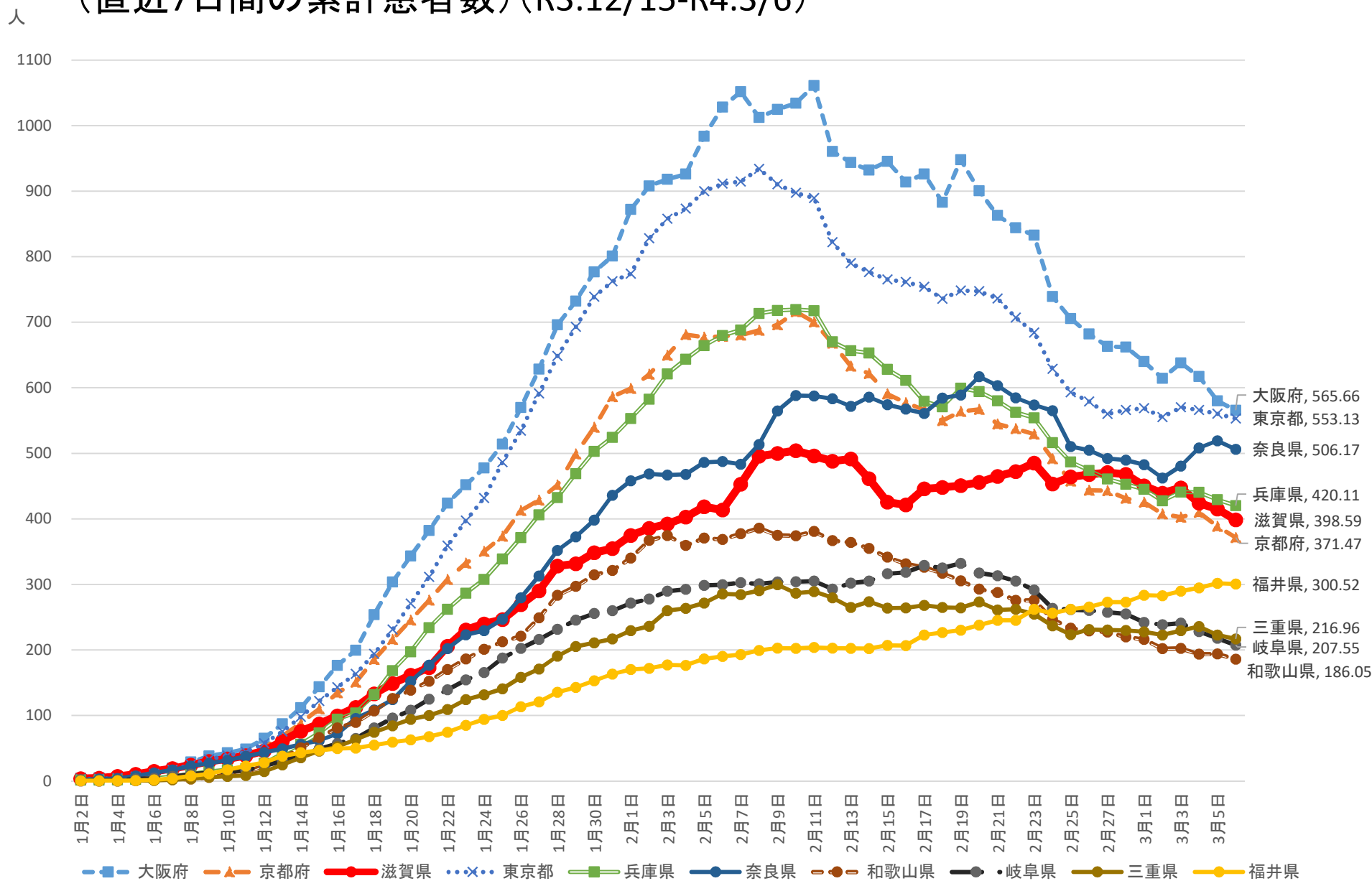
5)陽性者の感染経路(10万人あたり)推移

(公表日 直近7日間の累計患者数)(R3.12/15-R4.2/17)



6) 近隣府県等の10万人当たりの新規感染者数の推移

(直近7日間の累計患者数)(R3.12/15-R4.3/6)



2、県内の感染状況と体制について(3/6現在)

1) 県内の病床数および宿泊療養施設の状況

	県内 病床数					県内 宿泊療養 部屋数					
		入院者数	空床数		療養者数		清掃・修 理待ち	空数			
			県内発生	その他					県内発生	その他	
総数	500	349	343	6	151	677	186	182	4	46	445

2) 県内の陽性者発生状況

項 目	陽性者数累計	現在 陽性者数							入院予定等	宿泊 療養	退院等	死亡
			入院中			入院予定等						
			重症	中等症	軽症	重症	中等症	軽症				
PCR検査数	288,748											
(うち行政検査分)	113,159	54,084	7,985	343	5	107	231	7,460	182	45,947	152	
(うちその他検査分)	175,589	(うちPCR検査判明分 34,679)						(うち自宅待機 550)				
抗原検査数	155,277	(うち抗原検査判明分 19,405)						(うち自宅療養 6910)				

重症：人工呼吸器またはECMO(体外式膜型人工肺)が必要

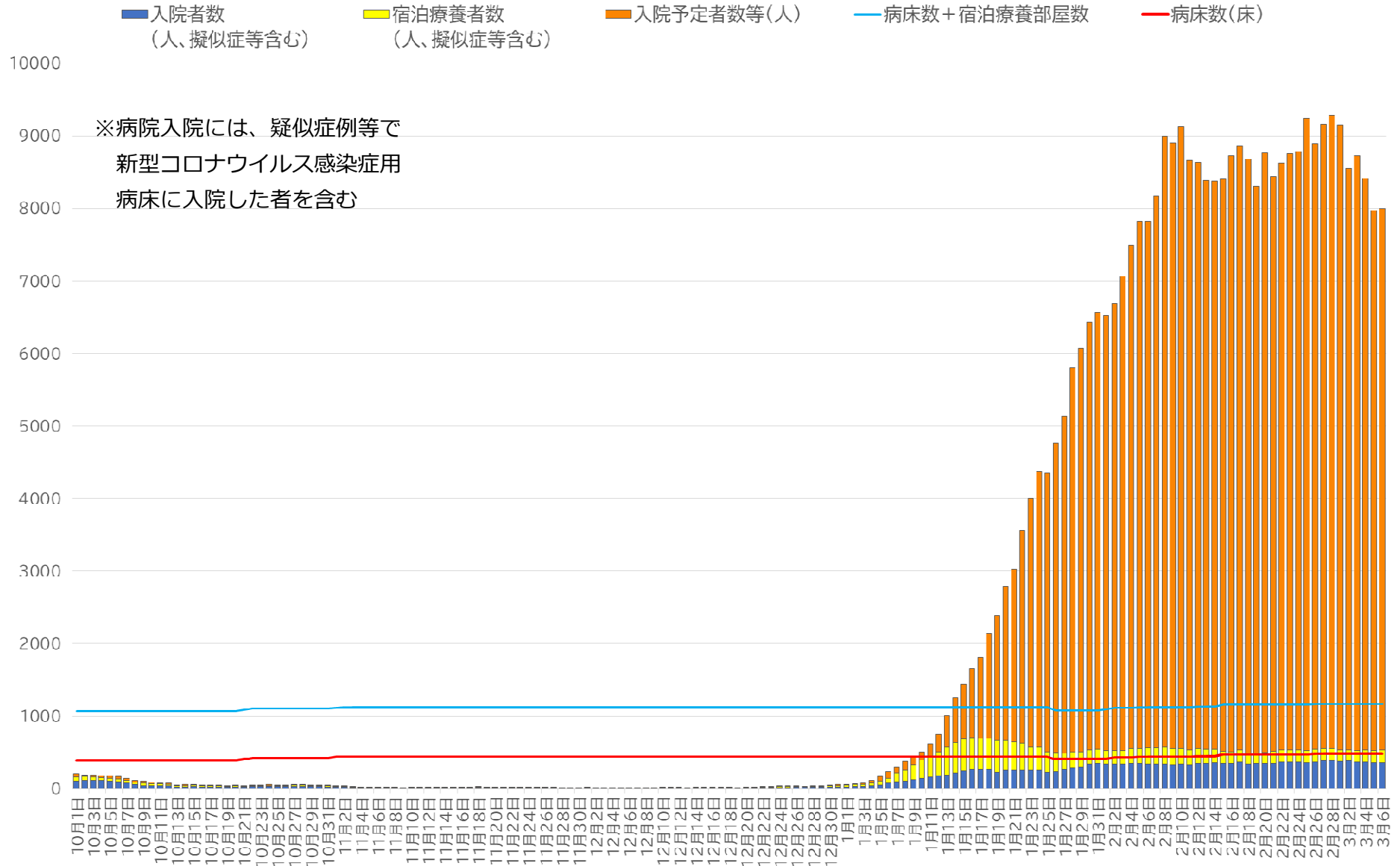
中等症：酸素投与が必要または摂食不可能

軽症：無症状または酸素不要、摂食可能

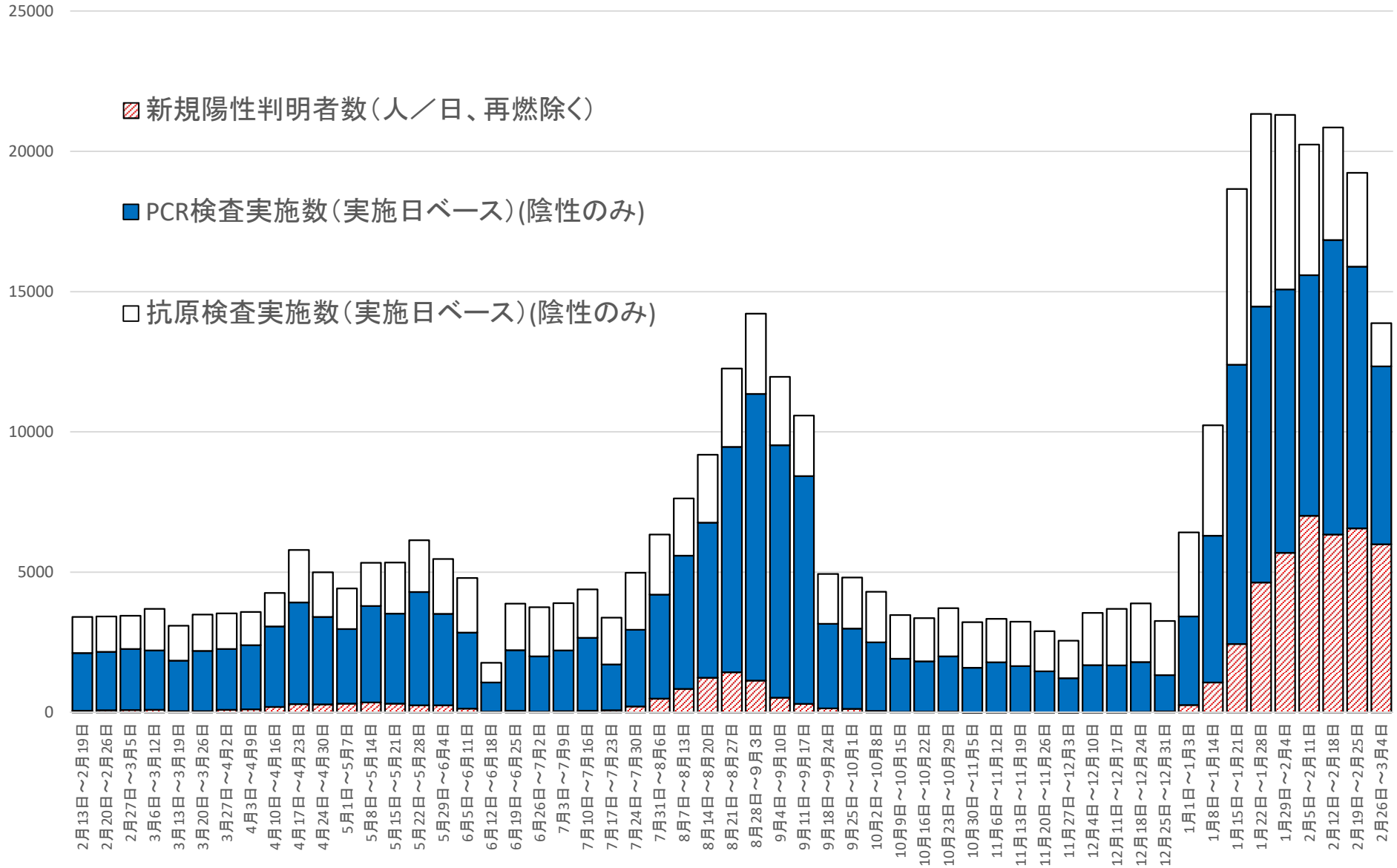
重症者以外のICU(集中治療室)利用者数

2人

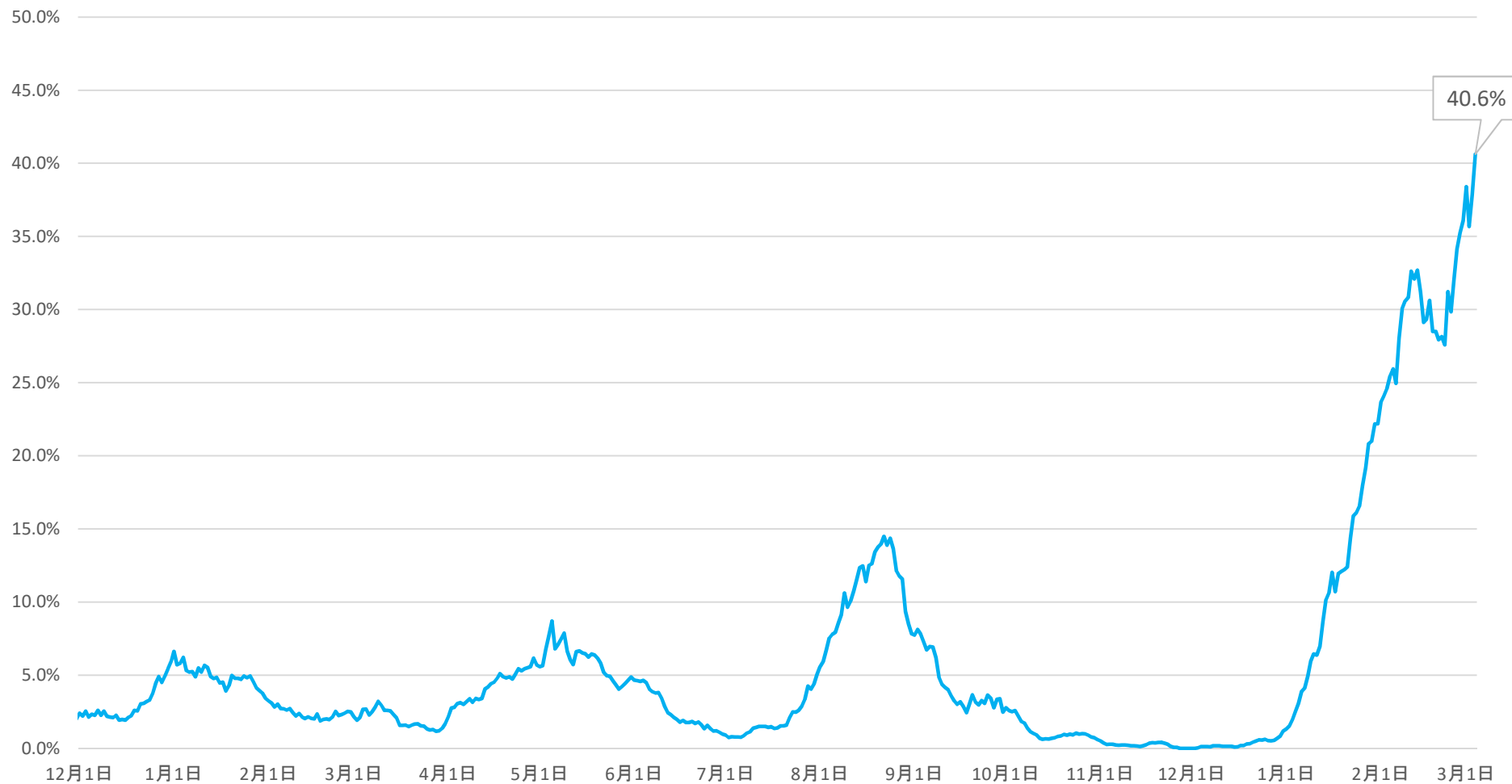
3)入院医療体制について



4)PCR等検査の状況(陰性確認を除く)



5)陽性率(7日間移動平均)

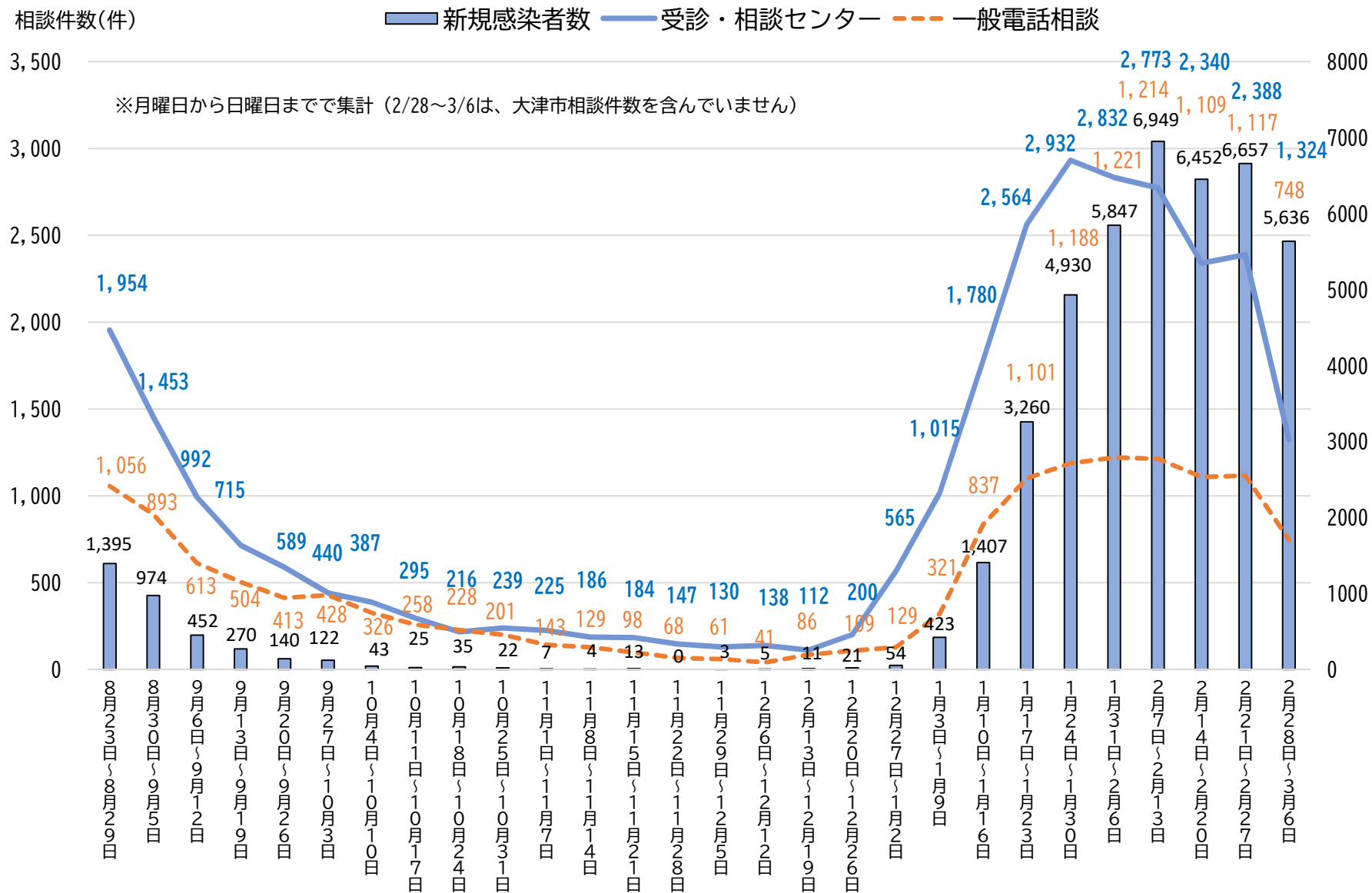


- 陽性率の7日間の移動平均(その日までの7日間の平均)を見ると、3月4日現在の陽性率は40.6%でした。

6)相談体制について

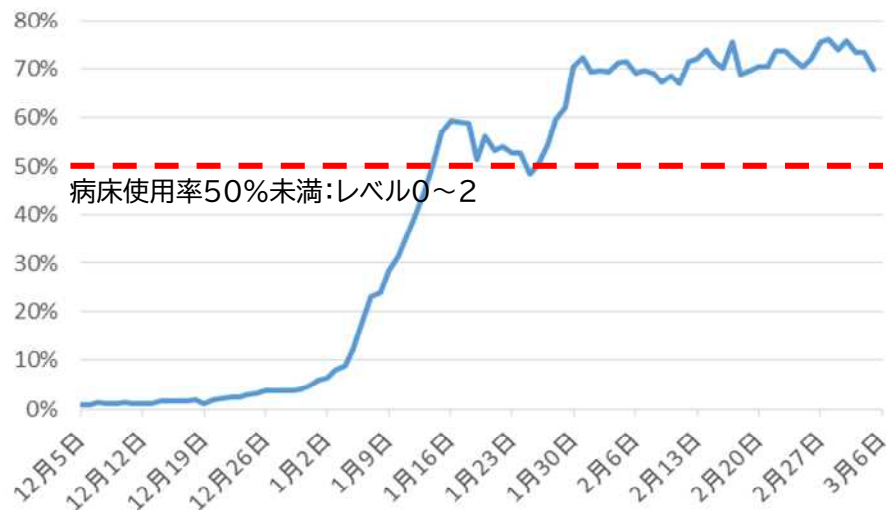
相談件数と新規感染者数（週計）

新規感染者数(人)

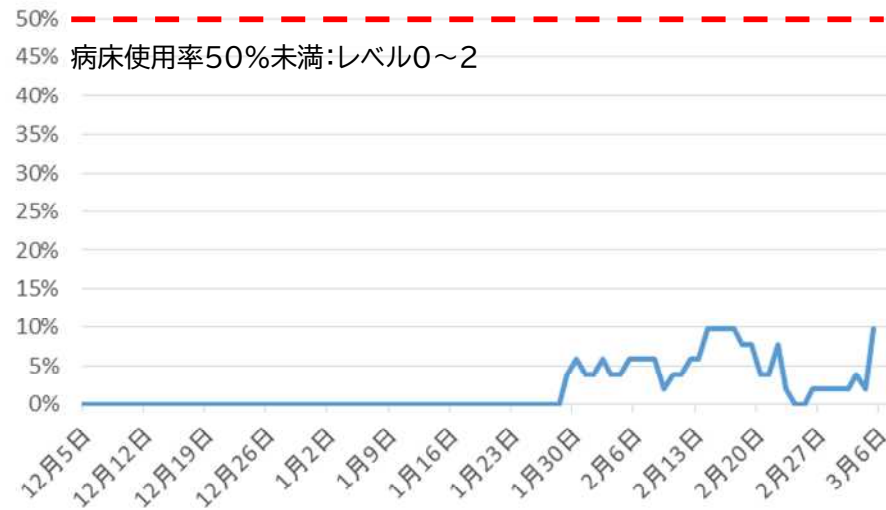


7) その他の県内の感染動向

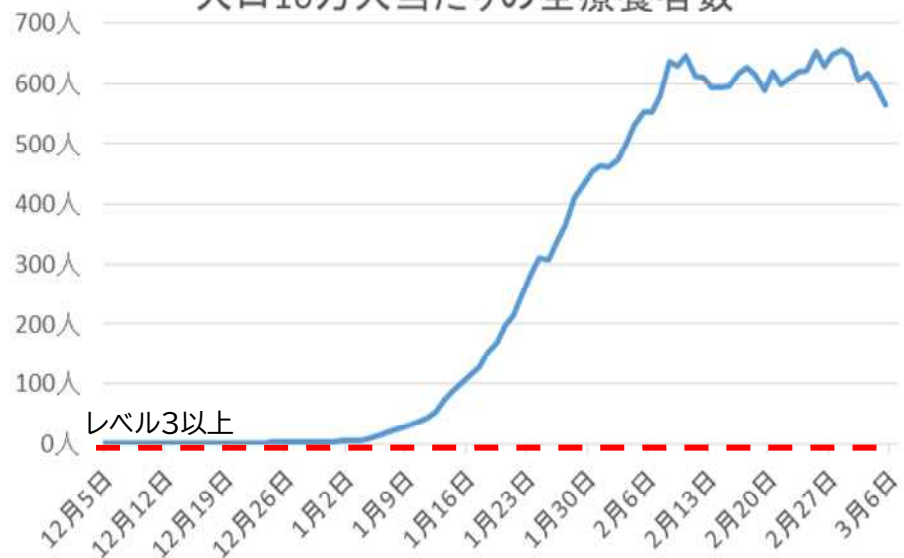
最大確保病床の占有率



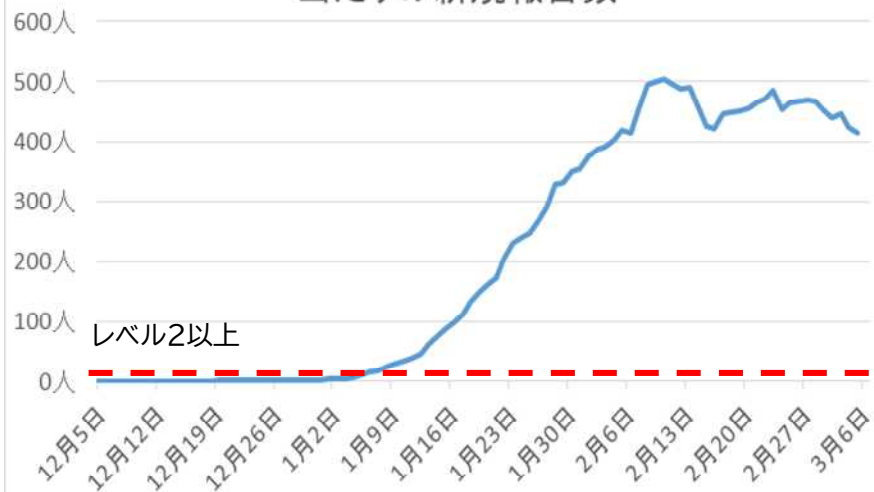
重症者用病床の最大確保病床の占有率



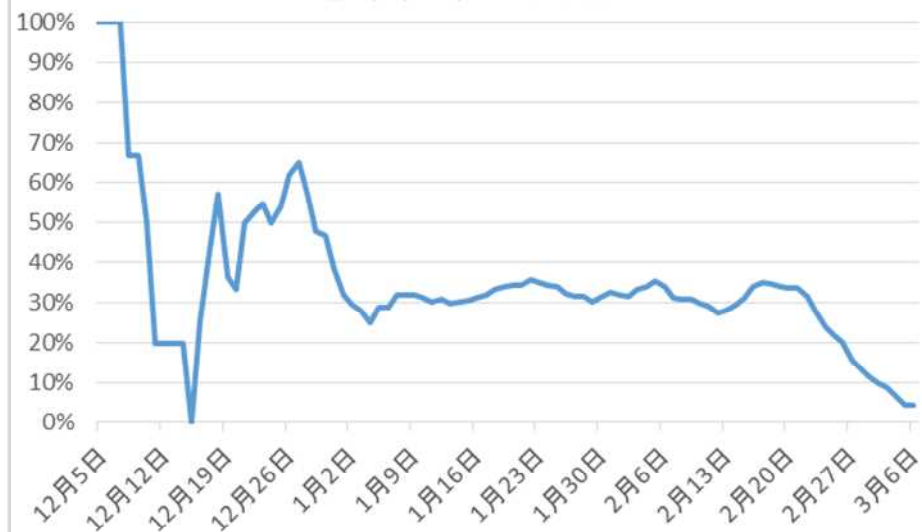
人口10万人当たりの全療養者数



直近1週間における人口10万人
当たりの新規報告数



感染経路不明割合



※調査が終了し、感染経路が不明と推定された方の割合を示しています。

評価(2/28~3/6の感染状況)

- 本県における今週の新規陽性者数は先週と比べて0.85倍とやや減少しました。1月24日の週以来、全ての曜日で1000人を下回り、かつ前週よりも少なくなりました。病床使用率は、70%前後で高止まっていますが、重症者用病床は低い値で推移しています。
- 全国的にはゆるやかな減少傾向が見られますが、新規陽性者数は未だ多い状況が続いています。一部の県でまん延防止等重点措置が解除されましたが、18都道府県は3月21日まで延長されました。大阪府等の近隣府県は2月上旬をピークにゆるやかな減少傾向がみられますが、関西圏は全国平均より高い状況です。
- 医療機関や福祉施設等で感染が多く確認されています。重症化と死亡を防ぐために、医療機関や福祉施設等に重点を置いた対応を実施すべき状況です。医療機関や福祉施設等は、対策の確認および職員のワクチン接種を進めるとともに、施設内で陽性者を療養する場合であっても確実に治療を提供できるように、嘱託医や協力医療機関と事前に調整しておく必要があります。
- 高齢者や基礎疾患を持つ方と接する方は、手洗い、会話時のマスク着用、換気や密の回避など基本的な感染対策の徹底・強化が必要です。学校や保育関連施設でクラスターが継続して多数発生しています。周囲の大人が対策を実施して、家庭内・園内・校内へウイルスを拡げない努力を継続するべきです。
- 他年齢層よりも重症化率が高い高齢者は、早期に3回目の接種を受けることを推奨します。また、新規陽性者の多くを占める小児と接する大人や保護者が3回目のワクチン接種を進めることも重要です。